



南房総のハズシ

[発行]

南房総教育事務所

令和6年3月4日

第23号

文責 学力向上班

教職経験10年未満の先生方による授業実践!

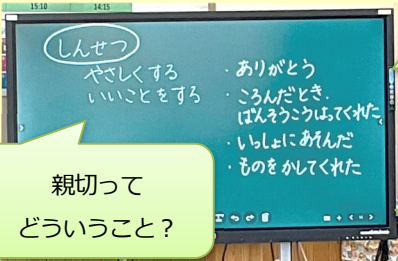
南房総教育事務所管内の小中学校では、多くの先生方が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムに基づいた授業改善に取り組んでいます。本号では、千葉県の事業である『U10（アンダー10）学びの未来づくり応援キャンペーン事業』の一環として、事例を2つ紹介します。

市原市 小中一貫教育校 加茂学園 鈴木 景子 先生

第1学年 道徳 主題名「しんせつは いいきもち」

「はしのうえのおおかみ（日本文教出版）」を教材として、「身近にいる人に親切にしようとする心情」を育てることをねらいとした授業でした。役割演技やグループまたは全体での話し合い等、児童の実態に応じた指導の工夫が多く見られました。

1 導入-見いだす-（ねらいとする価値への方向付け）



自分は親切に
できているのかな

どうして親切は
大切なんだろう…

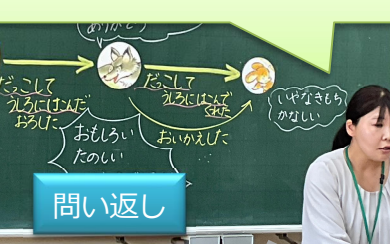
- ・事前アンケートの結果を示し、主題に対する興味や関心を高めることができた。
- ・これまでの経験を互いに共有し合うことで、児童が「親切って何で大切なんだろう…」という問題意識をもつことにつながった。

2 展開-自分で取り組む・広げ深める-（多面的・多角的に価値を深める 話し合いの組織化）



役割演技

いい気持ちは「同じ」なのかな??



問い返し

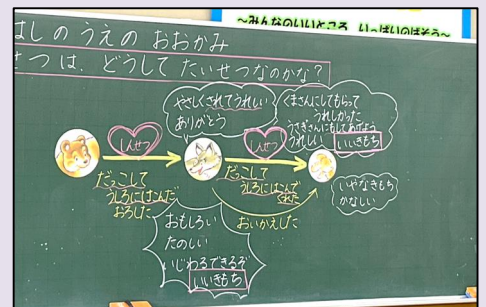
- ・体験的な活動（役割演技）を取り入れたことで、児童が物語の主人公に共感することができた。
- ・児童の発言を受け止めつつ、「問い返し」をして思考を促すことで、多面的・多角的に価値を深める場を設けた。

3 終末-まとめあげる-（振り返り 全体でシェア）



- ・時間をしっかりと確保していたので、児童は落ち着いて考え、振り返りを書くことができた。
- ・振り返りの様子を見て、支援が必要な児童には個別に助言していた。
- ・個々の考えを全体で伝え合い、広い視野で考えることができた。

◎思考を促す板書（心情の比較）



児童の思考を促すために、「発問」や「板書」がよく練られていました。また、児童が安心して考えを述べたり、話し合ったりする姿が印象的でした。日頃からの学級経営がその土台になっているのでしょうね。

市原市立千種小学校 大野 達生 先生

第4学年 図画工作「トントンつないで」

のこぎりや金づち、釘やきり等を適切に使いながら、角材と薄い板を釘でつなぎ、動くものをつくる題材です。「つなげ方を工夫して動くしくみをつくろう」というめあてに向かって、どの子ども自分の作りたいものをどのように作るかを考え、表し方を工夫しながら製作していきます。自分で取り組む場面・広げ深める場面を充実させることで、学習意欲が高まり、深い学びへつながる授業展開でした。

1 見いだす

- ・本時のめあて **つなげ方をくふうして動くしくみをつくろう**
- ・種類の異なる木材を事前に用意しておく。
- ・金づち、釘、ペンチ、きりの使い方を確認する。【安全面】



前時で道具の使い方について学習する。実際に道具を使って試す時間を確保する。



イメージすることが苦手な児童への手立て

2 自分で取り組む

- ・設計図をもとに、製作開始！
つくりながら新しい発想が生まれれば変更してOK！
- ・材料の組み合わせ方や、つないだ時の動きを色々試しながら工夫して表していく。



- ・自分の材料や道具は常にまとめておく。【安全面】



3 広げ深める

- ・自分が見つけた動く仕組みをグループの人に紹介する。



- ・つなぎ方や動き方を工夫している児童を紹介する。



ICTの活用（カメラ機能）

「口が後ろに動いてしまって困ってる・・・」

（友達から）
「つなく板を短くすればいいと思うよ」



- ・友達の作品や、アドバイスを参考にさらに発想を広げ工夫する。



4 まとめあげる

- ・今日の学習について振り返る。（振り返りカード）
気づいたことや学んだこと等を自分の言葉で書く。



どの子ども集中して学習に取り組み、日頃の学級経営が充実している様子が伝わってきました。図工室を使用し、道具の使い方や置き場所等の安全面について十分配慮された授業展開でした。2時間展開の2時間目を事例として挙げていますが、たっぷり活動時間を確保し、児童がつくる楽しさを味わうことができた授業でした。

